第5回ワークショップ「海洋環境影響を評価するアッセイ法に関する最新の話題」開催報告

開催日：2018年11月29日、30日

開催場所：鹿児島大学水産学部

主催：日本マリンエンジニアリング学会（海洋環境研究委員会）

共催：日本付着生物学会

WS実行委員会：小島隆志（海上技術安全研究所）、大地まどか（東京農工大学）、北村 徹（日本NUS）、島田 守（日本ペイントマリン）、野方靖行（電力中央研究所）、張野宏也（神戸女学院大学）、永井則安（日本NUS）、南 清和（東京海洋大）、日比慶久（東海大）、北野克和（東京農工大学）、勝山一郎（日本NUS）、広松和親（オイスカ）、宇野誠一（鹿児島大学）

プログラム：

1日目：11月29日（木）

10:00 受付

10:20–10:30 開会挨拶1 JIME 海洋環境研究委員会委員長

10:30–10:40 開会挨拶2 鹿児島大学 水産学部長

10:40–11:30 基調講演

魚胚を用いた沿岸域底質影響評価

宇野誠一（鹿児島大学）

11:30–12:15 一般講演

海産魚類に対する沿岸域底質影響評価

河合兆治（鹿児島大学）

メタボロミクスによるカフェイン暴露時の魚類に対する影響評価

関 圭樹（鹿児島大学）

津波による底質攪拌が有機スズ化合物の残存濃度に及ぼす影響について

薬師寺雄樹（東京大学）

昼 食

13:40–14:30 基調講演

海洋付着生物を用いたバイオアッセイ

松村清隆（北里大学）

14:30–15:45 一般講演

クラゲの飼育にインドメタシンを応用する

築地新光子（かごしま水族館）

海産ヒドロ虫クダウミヒドラ類の生態分布及び室内幼生試験例

山下桂司（(株)セシルリサーチ）

宮城県志津川湾における水産種に対する銅の生態毒性試験

田井梨絵（(株)日本海洋生物研究所）

薬剤による付着生物防除効果を評価するための模擬管路試験法

古田岳志（電力中央研究所）

15:45–16:00 総合討論1

18:00–20:00 技術交流会（ジェイドガーデンパレス）

2日目：11月30日（金）

10:00 受付

10:10–11:00 基調講演

海藻を用いたバイオアッセイによる環境影響評価

鈴木祥広（宮崎大学）

11:00–11:30 一般講演

水生植物によるPAHs汚染底質の浄化機能について

奥谷翔吾（熊本大学）

東京湾のアマモ *Zostera marina* における船底防汚物質の蓄積特性

金盛功治（東京農工大学）

11:30–11:45 総合討論2 および閉会挨拶

休憩・移動

13:00–15:00 エクスカーション いおワールドかごしま水族館

標記ワークショップは日本マリンエンジニアリング学会が日本付着生物学会の協力を得てアジアで初めて開催した「第14回海洋腐食と生物汚損国際会議（14thIC-MCF）」（2008年7月神戸）の成功を受け、今後も注目すべき重要な問題である船底塗料と海洋環境問題についての情報交換・議論の場として企画され、今回で5回目となる。今回は鹿児島大学水産学部の宇野先生のご協力により、鹿児島大学水産学部附属図書館で開催され、生物を用いたアッセイ法などを中心とした基調講演3件および一般講演9件の発表が行われた。基調講演3件は、「魚胚を用いた沿岸域底質影響評価」（鹿児島大学宇野先

写真 ワークショップ終了後の集合写真

生)、「海洋付着生物を用いたバイオアッセイ」(北里大学松村先生)、および「海藻を用いたバイオアッセイによる環境影響評価」(宮崎大学鈴木先生)と題して、異なる生物種を用いたバイオアッセイによる影響評価方法についての取り組みが紹介され、活発な議論が行われた。また、30日午後には「いおワールドかごしま水族館」を訪問して、バックヤードツアーが行われた。こち

らも生物試験に関連するメンバーが多かったためか、水族館担当者へも様々な質問が出るなど盛会のうちに終了した。なお、本ワークショップの内容を基にマリンエンジニアリング学会誌で特集号を編集することが決定しており、詳細な情報をお知りになりたい方は是非特集号を参照していただきたい。

(野方靖行)